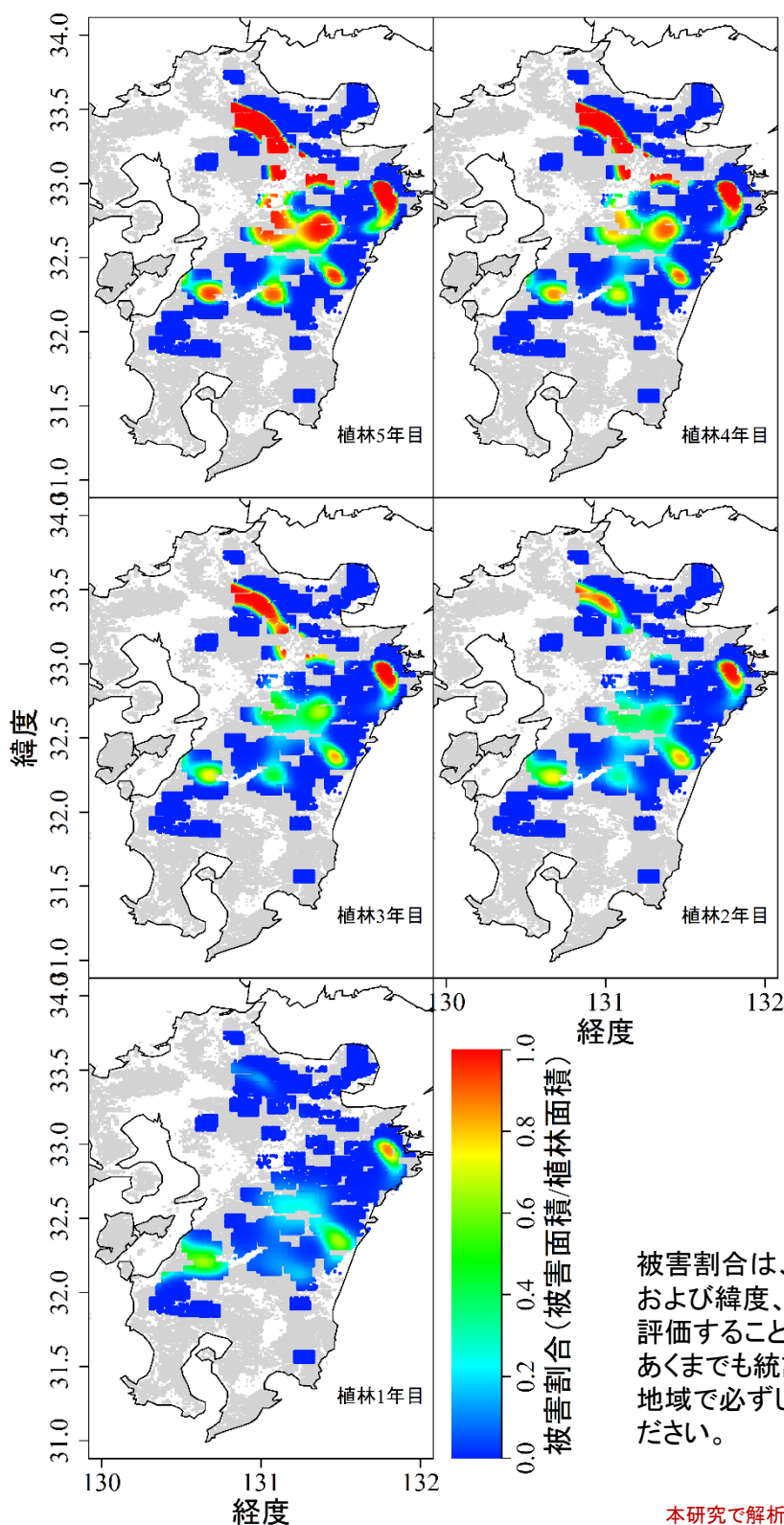


# 九州のニホンジカによる林業被害



数十年の間に、ニホンジカによる林業被害は急増しました。ただし林業被害は九州の全域で一律に起こっているわけではありません。そこで、新たに植林するときに被害を受けにくい場所を探す目安となるように、若齢植林地の被害状況を地図化しました。

○被害は植林からの年数とともに増加しました。特に2年目以降に多くの被害が出た地域は、植林被害の良い指標になるといえます。

○被害は地域的に偏り、いくつかの被害コアエリアがみつけられました。コアエリアやその周辺に植林すると被害が拡大しやすい可能性があります。

被害割合は、実際の被害状況に対する植林からの年数および緯度、経度の影響を、一般化加法モデルによって評価することで算出しました。あくまでも統計的に算出された値です。被害割合が低い地域で必ずしも被害が無いわけではないので注意してください。

本研究で解析に用いたデータは森林整備センターによって取得されました。

鈴木 圭 (九州支所)



国立研究開発法人森林研究・整備機構  
森林総合研究所